



4375
1



4375
1-7

都太夫一申直傳

4375
1

都羽二重拍子扇

板元 文華堂

初編標目

辰三好四季 家山

今系八系 雞何

小春盤結 小町少

夕系 根曳

小春盤結 牡丹 琴籠

藏書

507



都太夫一巾

都一翁
都金太夫三巾

都深奈太夫巾
都尾登太夫巾

都與佐太夫文中

都和歌太夫文中

都音太夫佐中

都挑太夫橋中

都巴太夫二巾

都出葉太夫巾

都八重太夫巾

都三味線

八造

六二

豐二

源内

汜雄

文露

都 都 都 都 都

辰巳の四季



春霞の如く引よけく久うらみ

自れはあつきのちかやきく

きよはなはつぐさのくはの

初より底にのこるる守伝の里

山のたけなほさるるもよもやのしず

つひありては相生あひまひの

松風のまじりて人ごま

くまよのやとあふらむ休也

琴ひらのきく庵いほのけしきも

五二

かたむねのきくも

かたむねのきくも

かたむねのきくも

かたむねのきくも

かたむねのきくも

の地はすまのうみちからひる花

うみちのうみちのうみちのうみち

花は日傘をさすの

うみちのうみちのうみちのうみち

氏子にうみちのうみちのうみち

うみちのうみちのうみちのうみち

うみちのうみちのうみちのうみち

うみちのうみちのうみちのうみち

うみちのうみちのうみちのうみち

のうみちのうみちのうみちのうみち

るに梅もりしきよはは後人の

るに梅もりしきよはは後人の

たきくもあかく新あらく

がもりしきよはは後人の

たきくもあかく新あらく

三

七ま好あのきよはは後人の

るに梅もりしきよはは後人の

るに梅もりしきよはは後人の

るに梅もりしきよはは後人の

るに梅もりしきよはは後人の

あはれむちたぬれは山崎のさか
るのたきしむの権のりや
やほひのせいのりまの系
の海うみの森もりをくむく結むすひ
あはれむちたぬれは山崎のさか

一頁四

まのたかたきく海うみをぬれ
痛いたむちたぬれは山崎の
るのたきしむの権のりや
あはれむちたぬれは山崎のさか
あはれむちたぬれは山崎のさか

しをばあへんははるもい

梅子^{うめこ}はさくらをさくらを

くらげもあはれしをばあへん

はかへんははるもい

あはれしをばあへん

あはれしをばあへん

あはれしをばあへん

あはれしをばあへん

あはれしをばあへん

あはれしをばあへん

武運長久たむと入志あり。
平代は平代の秋津洲也
四海あり丸志津のよき
あさよお國丁おろし。

吉原花紅葉錦廊

故 尤交述

名中あふりけり八けり也。
物ぞのまはみよ金盛の
さあふりけり三井寺也。
るひそむき鏡の聲也。

おのゝちかひのまゝにあらしやう。

日本一の太門口瀬田結

せだ ま

夕照のまゝに夕暮るる

ゆふぐれ

中之所。新れ燈籠のおぬら

のち

とうろう

とぬら

しゆくきぬくはたも

ひた

いりれ家の中。のまゝに

いり

のま

て敷内。たれ紋目

ま

かくとくかたはら

か

鳴のこゝろに身あ

な

な

あ

ら。菊津のせゐる

あつたまのこころをいかにいかに

合三三三

あつたまのこころをいかにいかに

あつたまのこころをいかにいかに

合三三三

あつたまのこころをいかにいかに

あつたまのこころをいかにいかに

合三三三

あつたまのこころをいかにいかに

あつたまのこころをいかにいかに

あつたまのこころをいかにいかに

あつたまのこころをいかにいかに

あつたまのこころをいかにいかに

けふは部の志はかきぬ
比の書を習をたねに
修けとまよふあはし
杉のらゝおれ志なきて
ふたりのかたがたをた

小春盤結段

思案れはむかひの
あはれあふぬと
むのよなむかひ
母のまがみらく

おぼろげにみえぬ身は
あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は

二
一

あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は
あはれなる身は

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

^{イハア}あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

あまのこゝろあまのこゝろ入水の

武^ら次^い人^い内^ち方^う此^こ首^く尾^びも^もなる

む^むが^がん^んく^くも^もか^かく^くせ^せん^んぶ^ぶ

せ^せん^んか^かり^りも^も親^{ちや}う^うは^はあ^あひ^ひ

ま^まい^いぬ^ぬあ^あも^もあ^あや^やは^はあ^あま^ま

^たり^りと^とら^らあ^あも^もあ^あ首^く尾^びの^のま^ま

引^ひき^きな^なた^たい^いの^の念^{ねん}の^の名^なの^の名^なの^の

多^たく^くし^しの^のま^まも^も今^{いま}も^も

ま^まい^いぬ^ぬあ^あも^もあ^あ首^く尾^びの^のま^ま

名^なの^のま^まあ^あも^もあ^あ首^く尾^びの^のま^ま

あ^あも^もあ^あ首^く尾^びの^のま^まあ^あも^もあ^あ

花が笑ふ心かたのしむまゝに
くもむも。志のまゝよにんまひ。
味いまへがうらむもくもくハ
廊まへがうらむもくもくハ
えちのいふまゝにまゝに。

志の情に二つ構へるは、はまの
かたのしむもくもくハ
まへがうらむもくもくハ
まへがうらむもくもくハ
まへがうらむもくもくハ

いかにあなまをまほひて世草を

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

いかにあなまをまほひて世草を

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

まほひてまほひてまほひてまほひて

うみづあはるしんはあま
くちあはるのぬこりあ
くもくはくお洞のちうぐほ
しんたあはるらきうたの
両路をぬもむうぶくあ祭。

夕霞浅間嵩

うみづあはるしんはあま
あつや行年存の洞あはる
あつやあはるしんはあま
あつやあはるのちうぐほ

あつたはるまはちとゆく

^イあつたはるまはちとゆく ^イあつたはるまはちとゆく

かゝも ^いあつたはるまはちとゆく

京の次郎 ^いあつたはるまはちとゆく

あつたはるまはちとゆく ^いあつたはるまはちとゆく

かゝ ^いあつたはるまはちとゆく

あつたはるまはちとゆく ^いあつたはるまはちとゆく

あつたはるまはちとゆく ^いあつたはるまはちとゆく

あつたはるまはちとゆく ^いあつたはるまはちとゆく

あつたはるまはちとゆく ^いあつたはるまはちとゆく

又

はゆとまきーもまじらや

まぬをくーむおまの火

まんぬをぬーのりあると

香かのかかりよじらぬ来る

魂たまハむーのむらうま

のまーくるあをまてあひ

あーま

奥おく列りがたまはる

らみも恋こものるま縁ゆの

もや心このかちちせ入さ

あまらこいふあまぬくの

むらやばらかとあくなき
能おぢも美ねあはれをうけ
あせよりあるとなりたまふ
らみあつてもいさ中の
むらゝの美ねあはれありハ

大加六
三三

かぢらよまのこころも
山おとしまのこころも
あはれ廊もあはれ
かぢらよまのこころも
川のなまもあはれ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

あはれなるはるかにさかたハ

おれがた〜

おれが〜

おれが〜

おれが〜

おれが〜

五

おれが〜

おれが〜

おれが〜

おれが〜

おれが〜

心づくる^{あや}あつみを^{こも}あつむの
十よりの^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを

あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを
あつむ^{あや}あつむを

あの一に申せりのみ

かゝるも名もあへん

くまの口を

たまたまの

あゝかり

つらねはまご

おも命のある

人志のあは

申とあつる

すづのあり

おうてはかろもろおれけや
まゝのさやゆり本るかこ櫛の
みだりくまやゆきま
あしあしあしあしあし
まゝのさやゆりあしあし
まゝのさやゆりあしあし

本をー山のたのものを
まゝのさやゆりあしあし
神せのさやゆりあしあし
脊中あしあしあしあし
おしあしあしあしあし

かきもろくが敷音柳の

あを 十志

うさぐもどりと鹿のしるし

まじりておのこころと輝ハ

十志

かき入はたてとあつとゆ

うさぐもどりとあつとゆ

十志

かき入はたてとあつとゆ

かき入はたてとあつとゆ

十志

かき入はたてとあつとゆ

かき入はたてとあつとゆ

かき入はたてとあつとゆ

あつてもうらんはちちらん
花壇の蝶のねらんも
羽根のくま草がれ
えりしをてそなたより

競牡丹

みわたりあつてもうらん
木おくらからうらん
日本提り大の事じゆ
道もたつたもあつても

かきみづの衣紋えもん返らう

わらわの甲かぶつをたのまはせ

雨あめのぬる身みれらの袖そでも

下した言こと上うへ村むらの山やまづら

うらた路みちららおがつつ

むらさきあはれなを

おのろよへ水みづの

物ものあはれを

ひらけおの花はなを

自まづむくむ舞まむくむ芳かほむくむ

かきぬくきかふたふの
十^と 雲^うとくハ九十九^り
と^とおのく^く草^くの^く霧^く
雨のおゆきや丸のおも
かき^かく^くく^く負^まお^おく^く

舟^ふぞ^ぞゆく^く身^みれ^れは^は夜^よあ^あじ^じ
去^いの^のぬ^ぬ路^ろ中^{ちゆう}へ^へ骨^{こつ}い^いら^ら
門^{かど}の^の糸^{いと}れ^れど^どよ^よい^いの^のま^ま
身^みの^のど^どく^くち^ちま^まら^らに^にま^まし^しの^の
れ^れど^どく^くよ^よい^いの^のま^ま

去⁷⁷めえまめや^ね庭^にく
ゆよものた^らま^りぢ^りれち
た^らま^りぢ^りれち^りの^り
る^らま^りぢ^りれち^り

見^るの^り柏^のぢ^りれち^りく

おせん^のま^りぢ^りれち^り

去⁷⁷んま^りぢ^りれち^り

一倍^いま^りぢ^りれち^り

意^の周^るま^りぢ^りれち^り

今^を入^りま^りぢ^りれち^り

桂男ハイロノカハ鞘トサヤリ

星の宇鞘ハワラヒのあり

男氣のこももかぢの石と岩

申ノ女郎ハ莖竹ノつむじ

志ハ糸ハもみと本よくおひ

あふ逢ハ別ノもこひハたぢ

ちハこめとたぢハ丸の心を

去ル人我ハ及ゆくとおハ名義ハ

魚ハ住ノ花ハく葉ハ丸ハ

ちカカキカキカキカキカキ

うへへ 粟井山おる一丸よ

りあぢく 雨雲のもしこぼらく

雨あめの下もとおおゆ 軒のき下もとは 繁さかり

ゆきあそ おもそく 山やまあふ

まへまへの道みちひら

家櫻傾城溪

春はるの目めれ 井いた人の心こころかな

あから 桜さくらのは 人ひとら ちらく

ちりと入いれ おの 蔭かげを 守まもりくや

くらんくらん びを 母ははの 中なかに

牛の乳を飲むには命を落とす

病に罹るは命を失ふに似たり

直の日を待つは命を待つに似たり

病に罹るは命を失ふに似たり

病に罹るは命を失ふに似たり

春を待つは命を待つに似たり

病に罹るは命を失ふに似たり

病に罹るは命を失ふに似たり

病に罹るは命を失ふに似たり

病に罹るは命を失ふに似たり

おふせくさくきんせ
はくわくくわくわくの
もゆうはくはくわく
まんぶはくわくわく
まろくわくわくわく

まろくわくわくわく
まろくわくわくわく
まろくわくわくわく
まろくわくわくわく
まろくわくわくわく

むらさきの梅はなちりく

^ル町とをりきれ中く

後ヒも妙ヒなるまごは葎ヒを

おぢくせぬのうはんヒの

まけぬをりヒをさくヒか

ふのまんぢはをさヒせたま

おんヒのちり人を

あつヒめめめめめ

くがヒたをん

あまのよヒちまひ

又心もぢ人の事おもはるる

あつたの志もあつたは教を

わが心をたぢの心とて

かたはくとり持はるる

ち人の心せぬのちか

西の心

あつた心もあつたは

あつた心もあつたは

あつた心もあつたは

あつた心もあつたは

あつた心もあつたは

申めれさめゆく 稗の雲々ら
浅黄と色よりり 清よりり
お人衆の多き志をぬえの
うげよ橋のちりーたれ
川よちがしとせより祭

源平妹脊雑合

ちり海もこもはもよましむ
りそいさめのの雑あませ
宗盛公は清前は飴はくたる
雑のおもちりひきよはなをかま

まの候まをるぬどくかこまぬ
ま下一だん番ばんれとりなまなたたままぬ
ももれれききぬぬぐぐををりりふふ吹吹ぬぬ
松まつ丸まると名なよああみみ雞けいの輝きらききけけだ
峰みねよかかののああるる琴こと州しゅうれれききよよ法はふめめをを

かかくくててままももううよよ分ぶん二に番ばんの
勝しょう雞けいハ名なももるるああるるれれ付つけく
ままむむハ雞けいののまませせよよせせる
波なみももああるるののああるる石いし
市いちららくくととせせくく夜よササををれれのの皮かわ

うたてちびにふあまの

うらくをたきらびく

桐子もふふあま

ふあまはあま

源合けん ドウキ氏の雑ハ走らふ

おたぬをへらゆひのこ

いせとつみりちりの

ちぢぢたぐいのゆよ雑れ

つちまちりくちりたが申言の

白り不らちりあま

何れもわらある籬のおき
ワレもあまらうとせ籬
まへハ去る系ゆやうけ
車くわよりとをさうくく
去のりゆもはなうり

引ひよせまゆりはたし
むまごのたあそなたは
りりの行司きたあはが
源氏の籬りさめ
しきりたうけのあう

おろを大事たいどに扱あつかう事

六むのさなげら御前ごぜんあそ

のあそまのむらさき

関せきやちのむらさき

弓ゆみ矢やれきり

羅らもかくとむらさき

うちまの丸まるよまのあそ

則すなはちおのむらさきあそ前まへ平家へいけの

幕まくれきりあそ旭あさひのあそ

羅らのさなむらさき

水みづのうへひちぢらぬめくさ

おみほしけよまねええ

十一てんのて手て紙しをを合あせて四し拾じゅう

八はちとと十二じふに周しゅう録ろく十じゅう二に月げつ

睦むつ月げつよよるるままよよううづづああけけららめめ

東ひがしのなか軍いくさ時とき八はち樹じゆををおおけけ

羽はのの雞けいのあ足あしのの文ぶん字じ作さく

砂すなのいろはは八はち文ぶん字じ

今いまのまちちのの橋はしををおおけけ

るるままよよううづづああけけららめめ

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきかきかきかきかきかきかき

あしきふまはるにけしむら

とあしきふまはるにけしむら

振キかぎキくキ雑毛キの

あしきふまはるにけしむら

あしきふまはるにけしむら

あしきふまはるにけしむら

あしきふまはるにけしむら

付ツキあしきふまはるにけしむら

あしきふまはるにけしむら

あしきふまはるにけしむら

手^と家の糺れもあし海^うに
勝^{かち}つろもせき走ら糺れ
かちぞんたあぢ鯨^{くじら}の擗
あし^{あし}も軍^{ぐん}のまはめや
かち^{かち}を悉く^{しつ}に番^{ばん}と里^り

く^く番^{ばん}もち^ちに源^{げん}氏^しのい^いま
は^はち^ちのあ^あぢ^ぢい^いの^のづ
今^{いま}糺^{たづ}ち^ちま^まよ^よは^はむ^むらん
あ^あし^しもあ^あぢ^ぢ羽^う根^ねと^とぬ
ま^まの^のは^はり^りや^やつ^つの^の糺^{たづ}を

ちしほむらたきふにふりふり

いふちあぢふあぢふあぢふ

源氏の籙ハ心記かふふ

ふのかくはくは籙子ハ

のいふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふハふふふふハ

ふふふふふふふふふふ

ふぐぬよりも柏子く

ちんちのけ食^くちりお根^ねの者^{もの}

ちんちんちんちんちんちん

お梅^{かい}ちんちんちんちんちん

小町少将道行

恋^{ニテ}もぐら玉^{たま}を^を盃^{さか}に^にあ^あく

もの^にちんちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちん

少将^{しょうしょう}を^を負^おひ^ひせ

何園と云ふ事も
あるが人たか
すもたかたか
たかたかたか
たかたかたか

たかたかたか
たかたかたか
たかたかたか
たかたかたか
たかたかたか

るもの小みゝあゝま

はおれむききりふ

舞のちのむららるる

山シテ夜おがらよの輝あかりはむら雨あめ

あつるあつ潤うると袖そでも拂はらく

大たいきくきくくやまのり敷しきの

衣いぬぬのあゝむしむしのあけ

眼まなこ君きみたもむらむら

けよのちびあゝむら

かゝるで衛身ゑみをく

もくほらあやしのなまんを
少^{ニテ}おろちやゆあぢか
きみ甲あまいこのま
あまうおあ人を馬の
物^にごひあうぢんあぢあま
三

あのかー由たあまのま
あまひちしあまのま
つるまらあまあまの
年よ一夜のあまあま
あまのあまうあまあま

去人^ま宗もすれをくりに

去ん^{なま}くものたごく

あは^{なま}穂おくらご時の

木のたごくよなまよる

去^{なま}くすれをくらく

小六子

後尾のつま
山崎^{なま}と次^{なま}宗根曳門松

^{なま}あはまうけ出せ山崎^{なま}と次^{なま}宗

うけ出せ^{なま}山崎^{なま}と次^{なま}宗

い^{なま}はな^{なま}の^{なま}れ^{なま}下^{なま}細^{なま}と^{なま}む

む^{なま}お^{なま}は^{なま}ら^{なま}む

去のぶむしもくははらぬ

情あやもなけんあらふ山崎をき出し様

さくく人よおくれねん乱れ髪の

うりのおのがのかのものてりましく

くのあいなもものせららまれた

とあこいあれる屋のあらまの

あらまのあしものあらまのあらまの

はらひたなれぬらげ羽の蝶

さくくくものあらまの

まのあらまのあらまの

春のふさふさなさを
あふねては花を
蝶の菜穂のつらさを
まらぬ申あは
しあはれあはれと

山竹キコ

くちあはれあはれと
親の清おんをゆり
そあはれ世活あはれ
あはれあはれと
いふふ人もあはれ

とちまのれ杉よちん

あづきのまのなれ駒こま

あのをくまのまあま

みれあつあつあま

待まち芽よあまおと子

たうまをまれ山崎の

つあまはみれ

あまあまあま

あづあみあまあま

ままあまあま

ついでにさしつかへなきは

松のらぶるよのがけはめ

かじりぬきぬき大まき

花車くわがまぐるくはくをせん

きくきがたぐたえんがんむり

うねるまの境ま界がい々

かぬぞくもかからま

かくかままししもも柳やなぎののいいれ

おろりおろりろををままらら山やまああるる

牙はののままるるくくままののままは

ひまわりをみるに
あはれなるを
か

たのしみは
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

あはれなるを
あはれなるを
か

さあしださあおれおれおれ
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

墨繪の島臺 築思述

朝来の也辨賊天女降臨
みめられいんあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

しそくりあまら青海波
松ゆく丸ハ好のほつら
茶は奉樂をまゝ飲す

^多けよつらうたえ丸
丸^しきなまひあゝ移の

はまのりたのちんせ
かゝるまゝはよあま
まねるる名なめり
ちのりあまはちんせ
^下つら上戸の酒は

鶴崎ちづらも

あつらひたし

あつらひたし

あつらひたし

あつらひたし

あつらひたし

あつらひたし

あつらひたし

あつらひたし

あつらひたし

崎 止よる月日具指折を

あちあつあちなる。床ぬへ

らううあうあうかかー貝か入る

去入るるのをも貝立名いそ

屏丸石方今と内子響小舟

三

烟曳の揮ふ ぬきつれ

浦風よ 裾ぬきうまおのり

下るるもあはれ 汗のぬけ

十二の窟ハツセツむい

見々 洞葉内子すれとて

のろお名所なごころ所ところもろやこも入
まふまふししりりしし壽しう命めい長ちやう久くを
ふふふふれれ神かみのの侍し女にららこ
ははららななりり華か々々々々々々のの時とき
由ゆ縁えんとと流りゅう代だい丁てい我が久く川せん紙し

三二 四

近きん来らい予よ一いつ流りゅう世せいよよいい流りゅうすす紙しよよ
古こ板ばんのの正せい本ほんハハ皆みな細こま字じ故ゆゑ出い出で系けい
改かへしし孝かう所しよ録りく也や文ぶん花か堂どうののままは
再また板ばんをを多たののむむののむむののむむハハありあり也や

于よ時とき
文ぶん政せい三さん庚こう辰しん年ねん孟もう春しゆん 都と太たい夫ふう



正本板元

江都瀬戸物町
文花堂
塩屋庄三郎

